

ジャミラ・セノさんのメッセージ

みなさん、こんにちは。

私はジャミラ・セノ、32歳です。現在ナマスファの理事を務めています。

2022年11月18日に、控訴裁判所がナマスファのストの合法性についての判決をくださったのですが、それは2019年の国家労使関係委員会の判断を覆すものでした。

2019年の国家労使関係委員会の判断は、ストは違法ではなく、(スミフルに)労働者の職場復帰を求めるものでした。しかし、控訴裁判所は、ナマスファのストは違法であると宣言したのです。

なぜ違法かという点、2019年9月に労働雇用省の長官が労働者にストをやめて職場に戻るよう命じた時、ナマスファがそれに従わなかったからだといいます。控訴裁判所は、ストが違法だと宣言しただけではなく、国家労使関係委員会に対し、違法なストに参加した労働者を解雇できるように、参加者の特定を命じました。

控訴裁判所の判断がこのようなものであったため、ナマスファはすぐに再審を申し立てました。しかし今日まで、控訴裁判所からの連絡は私たちのもとに届いていません。もし、控訴裁判所が再審を棄却するのであれば、ナマスファは最高裁判所に訴えます。連絡を待ち、私たちは労働者のことを考えて、闘争をつづけます。

メロディナ・グマノイさんのメッセージ

みなさん、こんにちは。

私はメロディナ・グマノイ、48歳です。ナマスファの書記をつとめていたことがありますが、現在はNKMDDO (Nagkahiusang Kababayan-ang Mamumuo sa Davao de Oro, ダバオ・デ・オロ女性労働者組合)の議長をしています。

「反共タスクフォース (NTF-ELCAC)」のプログラムにより、私自身が監視を受け、投降を促される経験をしました。なぜなら私が組合のリーダーだからです。

マルコス Jr 大統領が施政方針演説を行った今年7月、村役場からという一人の男性が、近所の人に私の家の場所を訪ねました。その男性は、近所の人に、私が抗議集会の人集めをしていると言ったそうです。

私は近所の人に、私を探したその男性のことを知っていますか?と聞きました。すると近所の方は、手に入れ墨をしていたのでフィリピン国軍だといいました。私を探していた男性は、私に会えなかったため、携帯電話番号を残していきました。そして、私を守るので、電話してほしいと言いました。それは、私を黙らせる脅しなのです。

2023年11月3日、二人の男性が私たちが住む村の区 (purok) の事務員を訪ね、私の家族の記録を見て、「このことは誰にもいわないでください」と言ったそうです。

2023年11月6日に、私たちは労働雇用省のダバオ・デ・オロ州部局に部局長を訪ね、起こったことを話しました。彼は労働者のための政府機関に勤めていて、だからこそ私たちの組合も登録しているのです。が、悲しいことに、彼は、私を守るために、彼の事務所で働か

ないかといってきました。

つまりかいつまんでいうと、私の名前を（ブラックリスト）から消すために、政府側の人間として働くことを要求されたのです。結社の自由の権利があるはずなのに、実態はこのような状況なのです。

国家機関がこのようなことをしても、私たちは自分たちの権利向上のために運動を続けます。日本の友人たちに伝えたいことは、国家（の抑圧）に対抗していきましょう。国際的に連帯しましょう。ありがとうございました。

訳者 石井正子（立教大学）

*（ ）は訳者挿入